

北潟湖の魚類相 (1964.3.10)

武生高等学校 五十嵐 清

まえがき

九頭竜川水系を始め大小の河川や、北潟湖と三方五湖とをあわせもつて、本県は豊富な淡水系に恵まれている。水産資源としてばかりでなく、最近九頭竜川は電源開発や工業用水として、又北潟、三方の両湖は観光地として大きくクローズアップされようとしている。しかしどのように水系が変つていつても“魚”をぬきにした川や湖は考えられず、その関係は古くて深い。

本県の淡水域に棲息する魚の中、二三のものについては極めて僅かな報告があるにすぎない。筆者は1951年より県下の各水系、特に九頭竜川、北潟湖、三方湖の魚族の調査研究を始めてきたが、北潟湖の魚族につき概要が明らかになつたので報告したい。本調査に当つて終始御協力下さつた北潟湖漁業組合長竹島泰助氏並びに見沢武氏に深謝したい。

北潟湖の概況

石川県との県境に位置した北潟湖は面積2.73平方料、周囲14料、最高水深2米の湖で河北潟とならんで、北陸の代表的な砂州堰止型の湖であろう。湖水の生成については福井新聞編の“自然”(昭33)に「北潟湖は海底の隆起した加越台地上に生れた。最初台地の上には小さな川が流れていた。台地の底には現在の北潟湖の縦の線に重つて破碎帯があるとみられ、又川に沿つて侵蝕谷が発達したため川巾はどんどん広がつていつた。とくにこの台地は現在も上下に動く地殻変動をやつているため、流れる川は単純な河川争奪や段丘を作らず川巾を広げる作用を急速に促進していつた。特に台地表面の柔かい砂質は一層川巾を広げやすくした。こうしてできた湖岸は単調でやわらかい曲線で、外形は三方五湖に比べて女性的で、広くなつた川にはどんどん川の堆積物がたまつて、湖底も最深部で2米しかない」と書いている。

浅く広がつた湖心にはえびもなどの沈水植物が繁茂し、湖岸にはヨシガびつしり生えている。

塩屋を対岸に望み大聖寺川をあわせて日本海に通じている北潟湖は汽水湖で、海に近い入海は多塩性汽水であつて、中部の大川は中塩性汽水となり、その上部の黒文字、弓合とシヨウゴでは貧塩性汽水で淡水に近くなつている。

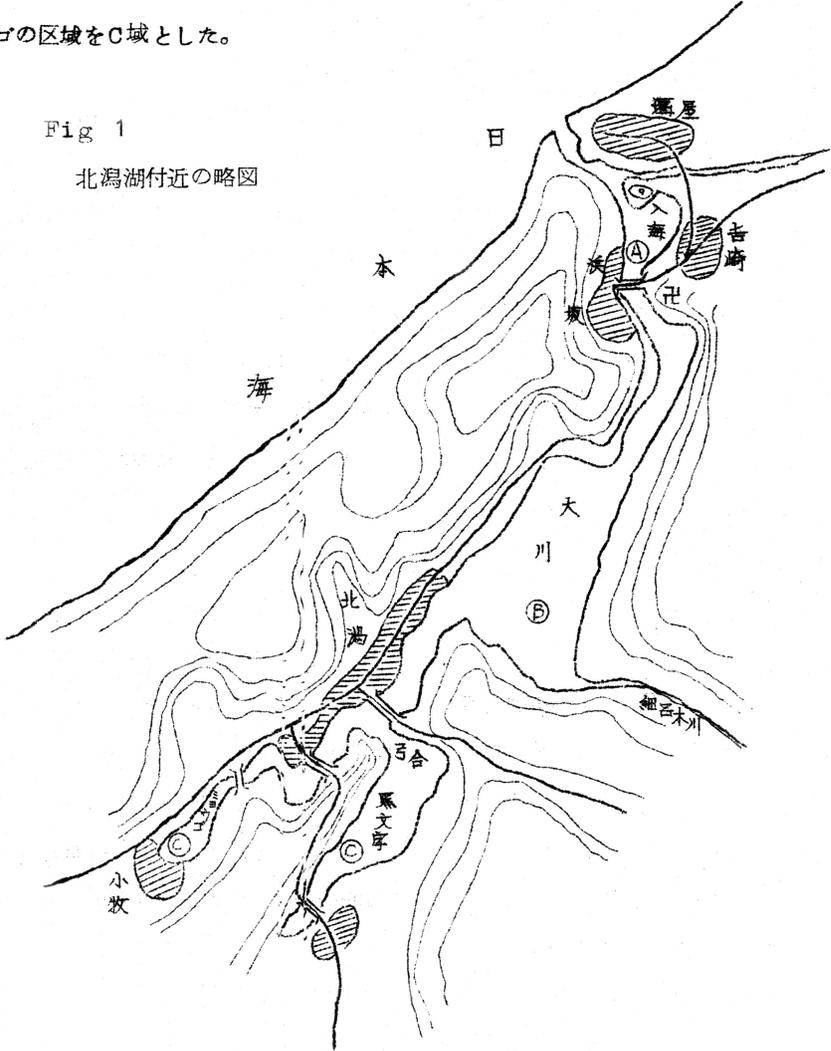
調査の概要

湖水の魚の採集は主としてシラウオ漁の地引網によるものや、筆者自ら採集したものである。北潟湖に棲息する魚種は筆者が現在までに採集し、確認しえたものによると21科27属33種に及んでいる。その中の主な魚の棲息の概要を次の3つの水域を設定して述べてみたい。

即ち多塩性汽水の入海をA域、中塩性汽水の大川付近をB域、貧塩性汽水の黒文字、弓合、と

ミヨウゴの区域をC域とした。

Fig 1
北潟湖付近の略図



各汽水域に関係なく湖全般に棲息するものにフナ、ワカサギ、ナマス、ウグイ、アユ、ボラ、ウナギ、ビリンゴ、チチブなどがあげられる。これらの魚はかなり広範囲の塩性汽水に適応できうるものと思われるが、各水域（A、B、C）に特に目立つた棲息を示している魚については次のようである。

先ずA域の多塩性汽水の入海に棲息する魚ではクサフグ、コノシロ、アシシロハゼ、チチブ、ビリンゴ、カムルチーが目立つている。海に最も近い関係上、フグ、コノシロのような海産型が入り込んでいる。中でもコノシロは本県が日本海における北限であると云われている。湖岸にはチチブ、ビリンゴなどのハゼ科の小魚が多数目につく。

B域の中塩性汽水の大川は湖の中でも最も広く、魚種も多い。特にワカサギ、ウナギ、イトヨ、

シラウオ、スズキ、ボラ、オイカワ、ヒガイ、タナゴ、などが多い。

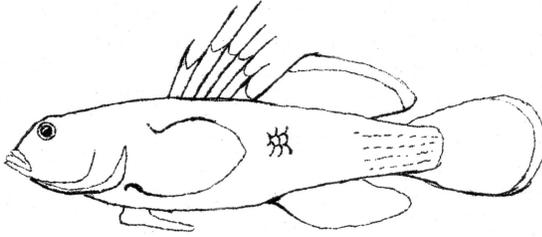


Fig 2 チチブ

*Tridentiger
obscurus (T. et S.)*

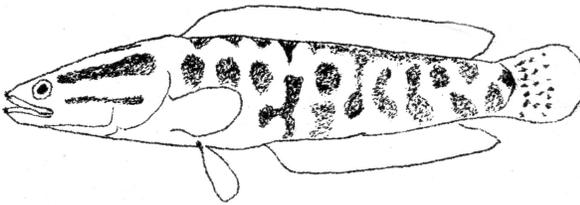


Fig 3 カムルチー

Channa argus (CANTOR).

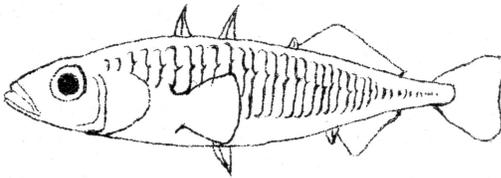


Fig 4 イトヨ

*Gasterosteus
aculeatus aculeatus
LINNAEUS.*

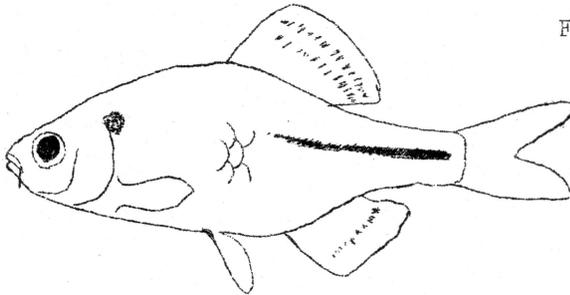


Fig 5 タビラ

*Acheilognathus tabira
JORDAN et THEMPTSON*

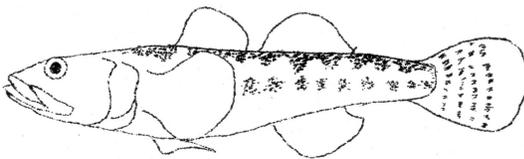


Fig 6 ビリンコ

*Chaenogobius Castanea
O'SHAUGHNESSY.*

その中で、ワカサギは3月から4月にかけて春風につて湖岸に移動し生殖産卵する。丁度その頃がシラウオの漁期に当たっている。イトヨは海産型のもので大野市の陸封型のものに比べて体長も大きく、4月から5月にかけて海から遡上し細呂木川の川口付近に集り営巣産卵する。数年前はシラウオ漁の網に多数かかつて、その処置に困つた程であつたが近年では一部にだけ見られて急激に減少している。

スズキ、ボラは10月末水温の下降とともに湖から姿を消すことになるが、アカメボラと云つている赤目のメナダは年中湖に見られると云うのが筆者は未だ確認していない。又シラウオ漁にタナゴ属の中のタビラ、カネヒラだけが多数入つて来ることから湖岸近くに群棲しているものと思われる。湖に入る細流にはヤリタナゴが多い。

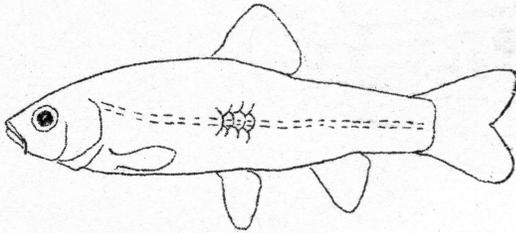


Fig7 タモロコ

Gnathpogon elongatus
elongatus (T. et S).

C域の貧塩性汽水の弓合、黒文字とミヨウゴでは、フナ、コイ、ナマズ、ドジョウの他、タモロコ、モツゴが多く見られる。この水域には柴つけによる漁法が盛んで、コイ、フナの漁獲が主であるが、タモロ、モツゴなども多数入り込む。冬季行われているこの漁法は柴付の枝の山の中にかくれ棲んで冬眠している魚を一網打尽にしようと云うもので興味深い。

北潟湖の水産資源として重要視されている魚にフナ、コイ、ワカサギ、シラウオ、ボラ、ウナギなどをあげることができる。最近これらの有用魚が減少の傾向にあると云うが、雑魚とされているタモロコ、モツゴ、タナゴ、イトヨ、ナマズ、ハゼ科の魚、オイカワ、カムルチー等との棲息と消長関係とにかなり密接なつながりがあると思われるので、この方面の調査は有意義と思われるので今後の問題としたい。なお水産資源の確保から積極的な増殖を望みたいものである。

参 考 文 献

- 1) 宮地伝三郎、川那部浩哉：原色日本淡水魚類図鑑、保育社（1963）
- 2) 中村守純：原色淡水魚類検索図鑑、北陸館（1963）
- 3) 青柳兵司：日本列島淡水魚類総説、大修館（1957）
- 4) 岡田弥一郎、中村守純：日本の淡水魚類、大修館（1948）
- 5) OKAD, Y: Studies the Freshwater Fishes, Bull, Mie Prefectural uniu. (1959~1960)
- 6) 福井新聞編集局：自然 福井新聞社 (1959)

北瀨湖の各汽水域にみられる顕著な魚類

1964.3.10

| 種 | | 類 | | | A | B | C | 採集月日 |
|----|-------|-----------------------------------|--|--|------|------|---------------|-------------|
| | | | | | (入海) | (大川) | (写合、黒文、字ミヨウゴ) | |
| ア | ユ | Plecoglossus alivelis. | | | ○ | ○ | ○ | 1963. 4. 19 |
| ワ | カサギ | Hypomessus olidus. | | | ○ | ○ | ○ | 1963. 4. 19 |
| シ | ウオ | Salangichtys microdon. | | | ○ | ○ | ○ | 1963. 4. 19 |
| タ | ビラ | Acheilognathus tabira. | | | ○ | ○ | ○ | 1962. 7. 6 |
| カ | ネヒラ | A. rhombea. | | | ○ | ○ | ○ | 1962. 5. 2 |
| ヤ | リタナゴ | A. lanceolata. | | | ○ | ○ | ○ | 1963. 5. 12 |
| ヒ | ガイ | Sarcocheilichthys variegatus. | | | ○ | ○ | ○ | 1962. 7. 2 |
| モ | ツゴ | Pseudorosbora parva. | | | ○ | ○ | ○ | 1962. 7. 6 |
| タ | モロコ | Gnathopogon elongatus. | | | ○ | ○ | ○ | 1962. 5. 3 |
| ウ | グイ | Tribolodon hakonensis hakonensis. | | | ○ | ○ | ○ | 1962. 5. 3 |
| オ | イカワ | Zaco platypus. | | | ○ | ○ | ○ | 1963. 4. 19 |
| コ | イ | Carassius carpio. | | | ○ | ○ | ○ | 1963. 4. 19 |
| ギ | ンブナ | C. carassius lengsdorfi. | | | ○ | ○ | ○ | 1962. 7. 6 |
| ゲン | ゴロウブナ | C. carassius cuvieri. | | | ○ | ○ | ○ | 1962. 7. 6 |
| ト | シヨウ | Misgurnus anguillicaudatus. | | | ○ | ○ | ○ | 1962. 7. 6 |
| ナ | マズ | Parasilurus asotus. | | | ○ | ○ | ○ | 1963. 5. 12 |
| ウ | ナギ | Aquila japonica. | | | ○ | ○ | ○ | 1963. 5. 12 |
| メ | ダカ | Oryzias latipes. | | | ○ | ○ | ○ | 1963. 4. 19 |
| クル | メサヨリ | Hemiramphus kurumeus | | | ○ | ○ | ○ | 1962. 5. 3 |

| 種 | | 類 | | A | B | C | 採集月日 |
|--------|---|-----------------------------------|--|------|------|----------------|-------------|
| | | | | (入海) | (大川) | (月合、黒文、字、ミヨツコ) | |
| イト | ヨ | Gasterosteus aculeatus aculeatus. | | | ○ | | 1963. 5. 12 |
| ホ | ラ | Mugil cephalus. | | | ○ | ○ | 1962. 6. 7 |
| メ | ダ | Liza haemato cheila. | | | ○ | | 1962. 6. 7 |
| カムルチ | ー | Channa argus. | | ○ | ○ | ○ | 1963. 5. 12 |
| ス | キ | Lateolabrax japonicus. | | | ○ | ○ | 1962. 6. 7 |
| ド | コ | Mogurnda abseura. | | | | ○ | 1963. 5. 12 |
| チ | ブ | Tridentiger obscurus. | | | ○ | ○ | 1962. 7. 6 |
| ウ | ゴ | Chae mogobius urotaenio. | | | ○ | ○ | 1962. 7. 6 |
| ビ | コ | C. castanea. | | | ○ | ○ | 1962. 7. 6 |
| アジシロハゼ | | Aboma lactipes, | | | ○ | | 1962. 7. 6 |
| クサフグ | | Fugu niphobles. | | | ○ | | 1962. 5. 3 |
| コノシロ | | Clupandon thrissa. | | | ○ | | 1962. 7. 6 |
| ヌマガレイ | | Platichthys stellatus. | | | ○ | | ? |